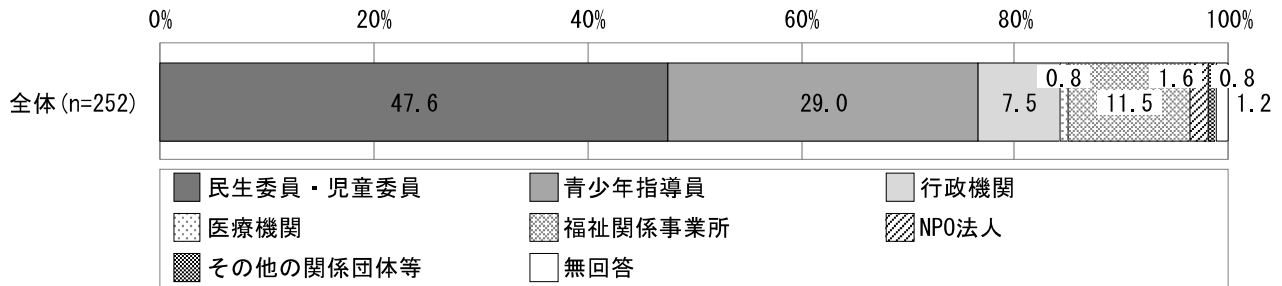


第 5 章 関係団体等調査の結果

1. あなたや所属団体等のことについて

(1) あなたの所属等はどちらですか。

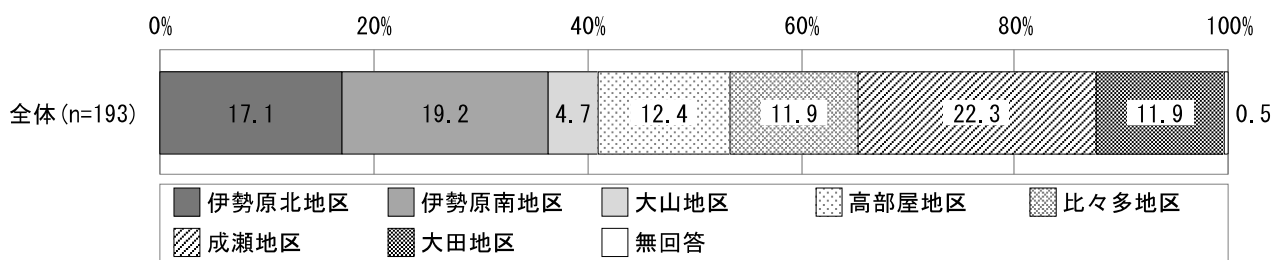
全体では、「民生委員・児童委員」が 47.6%と最も高く、「青少年指導員」が 29.0%、「福祉関係事業所」が 11.5%と続いている。



(2) 民生委員・児童委員、青少年指導員の該当する地区分類

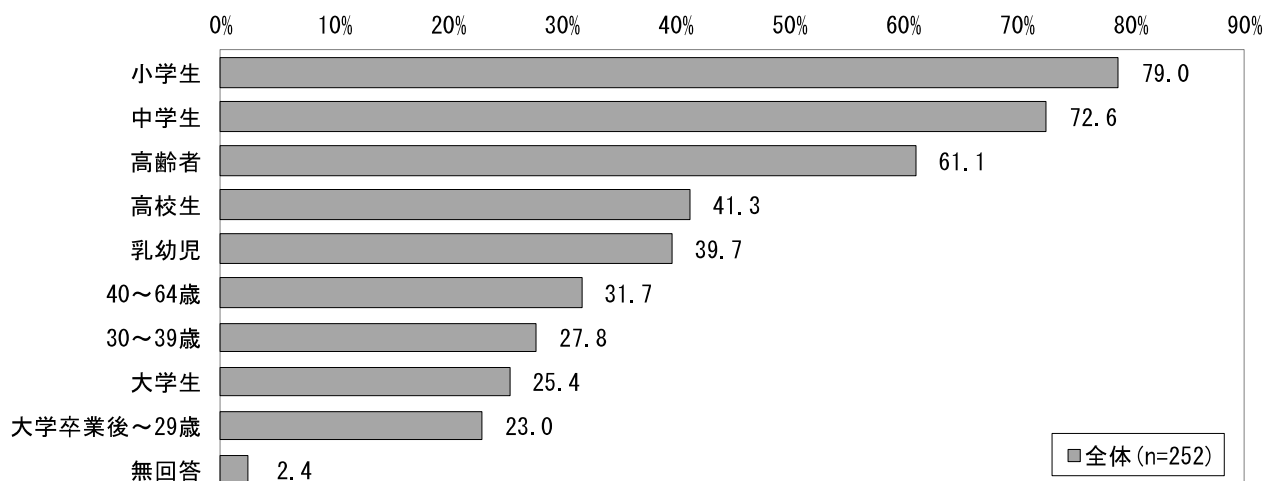
※ (1) で「民生委員・児童委員」「青少年指導員」と回答した方に質問

全体では、「成瀬地区」が 22.3%と最も高く、「伊勢原南地区」が 19.2%、「伊勢原北地区」が 17.1%と続いている。



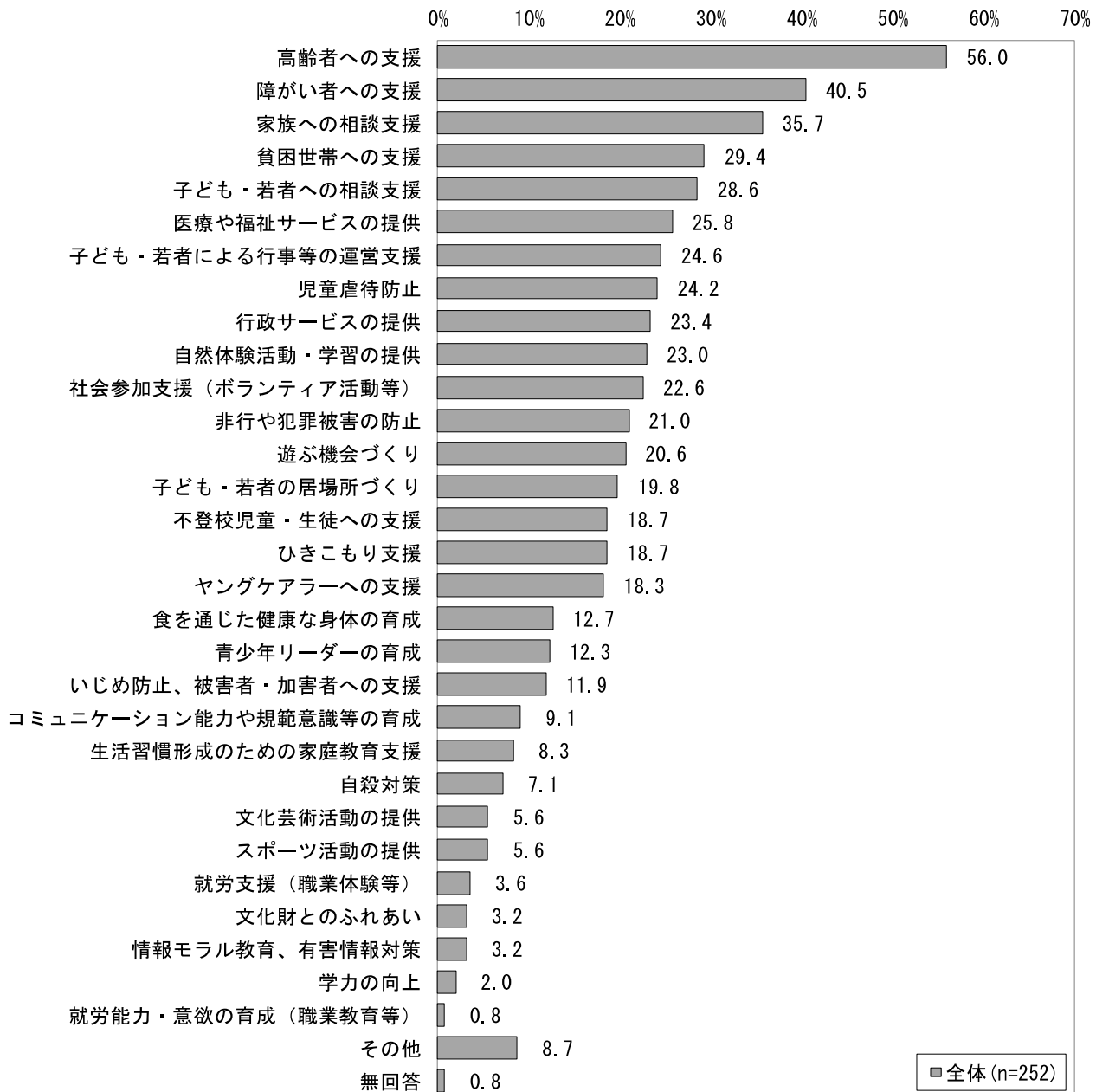
(3) あなたや所属団体等の支援対象は誰ですか。(いくつでも)

全体では、「小学生」が 79.0%と最も高く、「中学生」が 72.6%、「高齢者」が 61.1%と続いている。



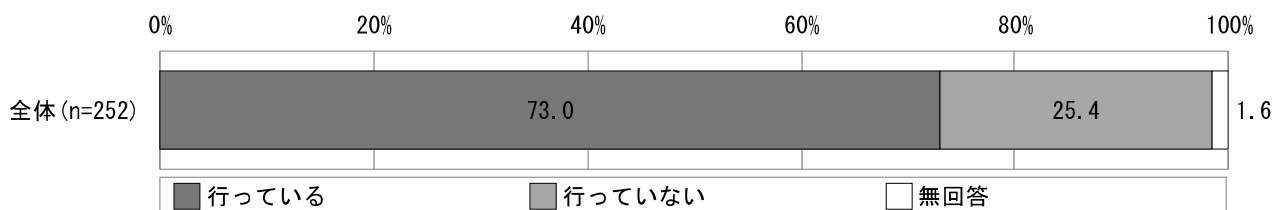
（４）あなたや所属団体等の支援分野・内容はどれですか。（いくつでも）

全体では、「高齢者への支援」が 56.0%と最も高く、「障がい者への支援」が 40.5%、「家族への相談支援」が 35.7%と続いている。



（５）あなたや所属団体等は、子ども・若者（０歳～概ね 39 歳）への支援を行っていますか。

全体では、「行っている」が 73.0%、「行っていない」が 25.4%となっている。

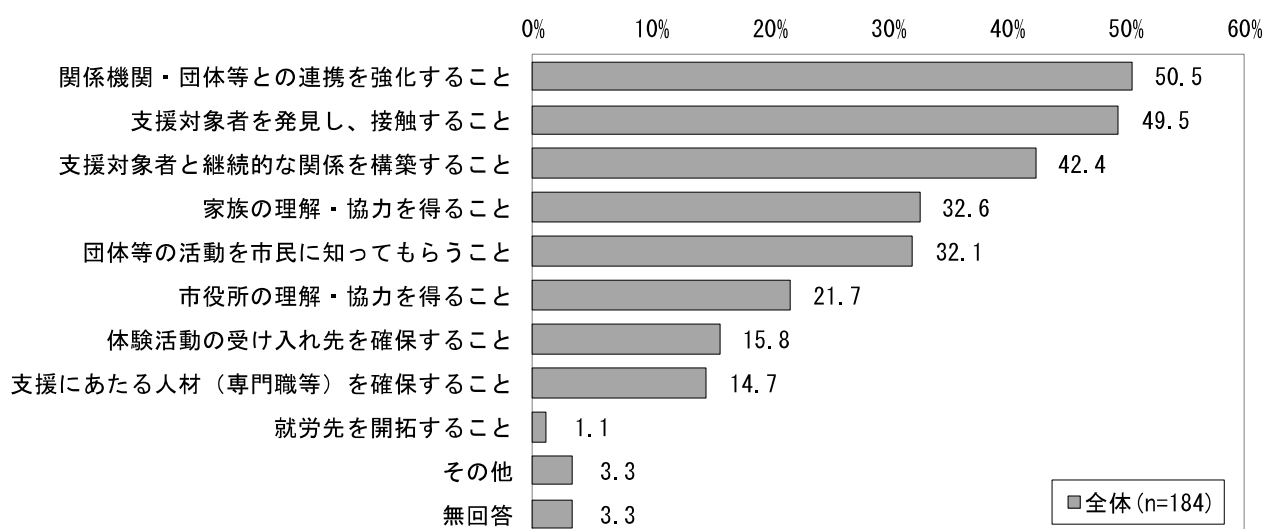


2. 子どもや若者への支援に関わる施策全般について

（１）子ども・若者への支援を行うにあたり、あなたやあなたの所属団体等が抱えている課題は何ですか。（いくつでも）

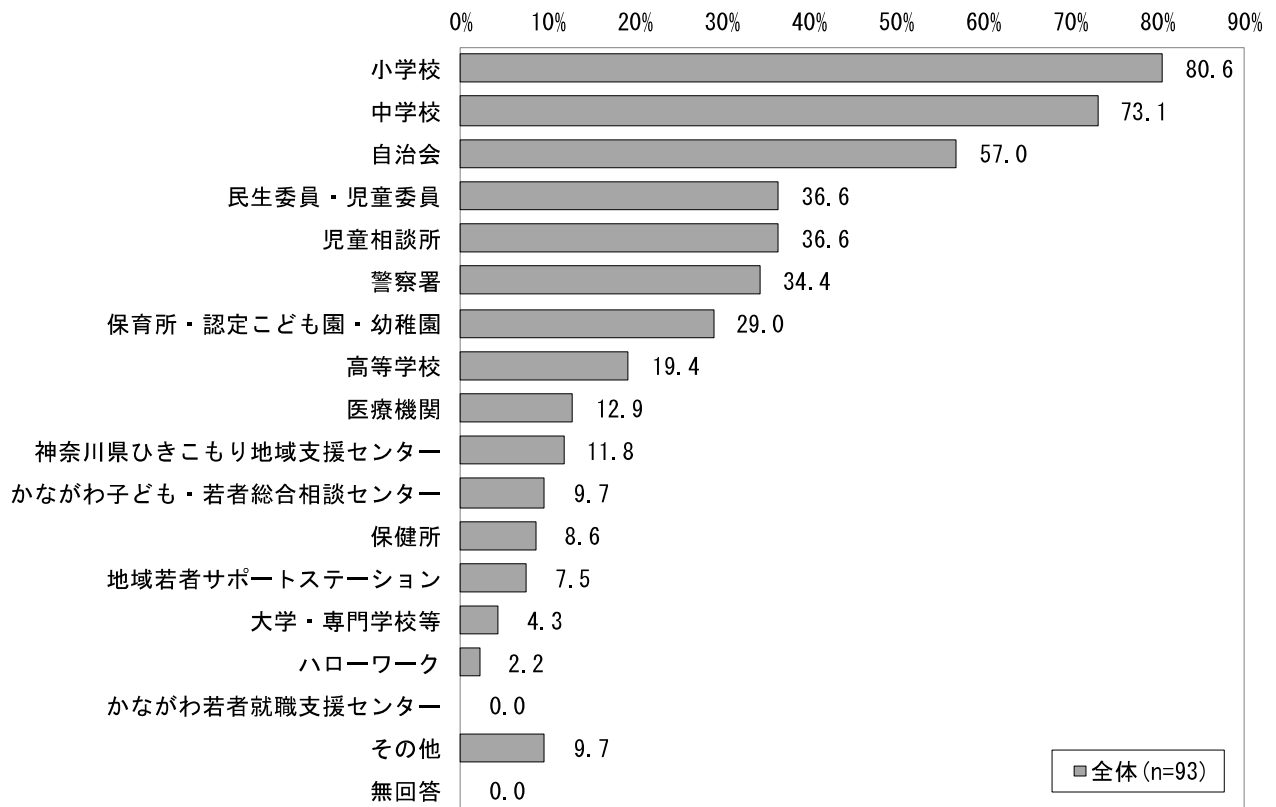
※１（５）で「行っている」と回答した方に質問

全体では、「関係機関・団体等との連携を強化すること」が 50.5%と最も高く、「支援対象者を発見し、接触すること」が 49.5%、「支援対象者と継続的な関係を構築すること」が 42.4%と続いている。



（２）具体的にはどのような機関・団体等との連携強化が課題ですか。（いくつでも）
 ※（１）で「関係機関・団体等との連携を強化すること」と回答した方に質問

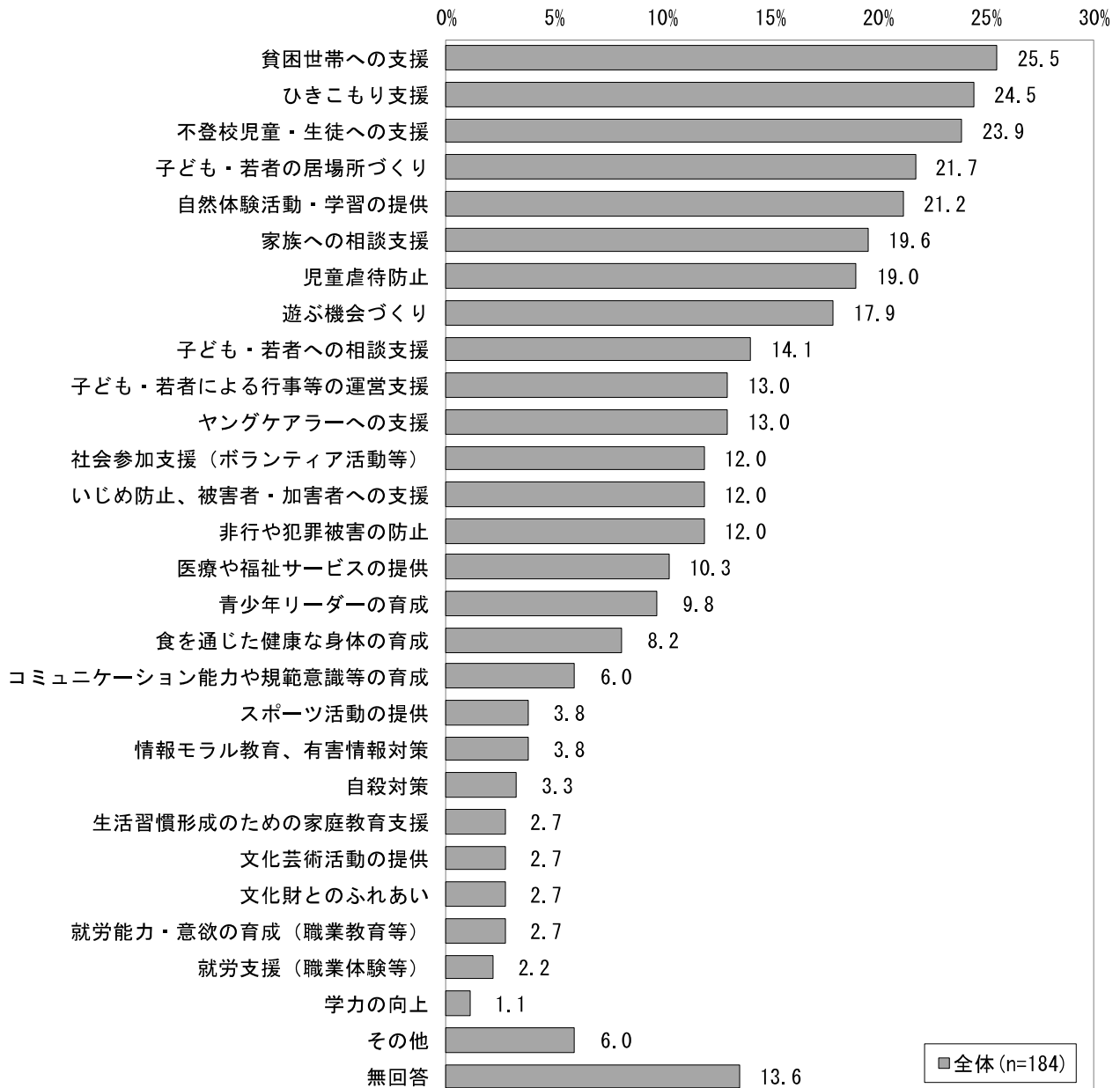
全体では、「小学校」が 80.6%と最も高く、「中学校」が 73.1%、「自治会」が 57.0%と続いている。



（３）次の分野の中で、あなたや、あなたの所属団体等が特に課題と捉えている分野・内容は何ですか。支援分野以外のことでも構いません。（５つまで）

※１（５）で「行っている」と回答した方に質問

全体では、「貧困世帯への支援」が25.5%と最も高く、「ひきこもり支援」が24.5%、「不登校児童・生徒への支援」が23.9%と続いている。



(4) 前問で選択した分野・内容についてうかがいます。

どのような課題や必要な取り組みがあるのか、それぞれ具体的にお書きください。

【生活習慣形成のための家庭教育支援】の課題や必要な取り組み

回答
子育て夫婦のこどもを大切にする日常がこどもの情緒豊かな成長につながることを夫婦に教育
最近では共働きの家庭も多く、且つ、核家族の中で育っている人も多く、食事の偏りや自宅での過ごし方等、支援が必要とされる家庭も多く、不登校、ひきこもり、貧困など市と医療、福祉の連携が必須
障害特性に応じた家庭環境の整備、構造化など家庭の様子を知りながら支援をする必要があるが、コロナ禍以降家庭訪問を拒否する傾向があり、実際の場面を見て支援することが難しいと感じている

【コミュニケーション能力や規範意識等の育成】の課題や必要な取り組み

回答
能力は人それぞれ個性があるので、取り組みを一概に語ることは難しいと思う。”寄り添い方”が必要と思う
○スマホの普及により、他者との会話が減っている。 ○人の話を聞き、理解し、適切なことばで会話できる能力をつける。読書の習慣をつける
パトロールを実施していると思うところですが、子供同志で遊んでいる光景をみません。ゲームなどで遊んでいると思われます。ゲームで遊ぶことを悪と思いませんが、子供同志で遊び、自然とコミュニケーションが取れると思います。そのあたりが不足するのではないかと危惧します
とかく年代が離れている関係の中で、大人としても子どもに対するコミュニケーションの取り方に迷ってしまう時がある。お互いに垣根を取り外したコミュニケーションが取れるようになれば望ましいと思います
1. 課題 デジタルコミュニケーションの増加 ソーシャルメディアやメッセージアプリの普及により、直接的な対面コミュニケーションが減少し、言葉遣いや態度に関する規範意識が希薄化している。オンラインでのやり取りでは、非言語的なコミュニケーションが欠けるため、誤解や対立が生じやすい。多様性の尊重 異なる文化や価値観を持つ人々とのコミュニケーションが増える中で、相互理解と尊重が求められるが、それに対する意識が十分ではない場合が多い。個人の常識（偏見や差別的な態度）が無意識に表れることがある。
2. 対策 教育カリキュラムの見直し 小学校から大学までの教育課程において、コミュニケーション能力や規範意識の育成を重視したプログラムを導入する。ディベートやグループディスカッションを通じて、意見の交換や相互理解を促進する活動を増やす。家庭での取り組み 親子のコミュニケーションを深めるためのプログラムやワークショップを提供する。家庭内での会話を増やし、互いの意見を尊重する習慣をつける。社会全体での意識向上 メディアを通じて、コミュニケーションの重要性や規範意識について啓発するキャンペーンを実施する。企業や地域社会でも、コミュニケーション能力や規範意識を重視した取り組みを推進する。
保護者との面談において、保護者の価値観、理解が多様化しており、子育てのツールも増えたことから今までの子育てで大事と言われて来た事柄を一般化出来ないこと
元々持っている特性上、他児他者との距離感やコミュニケーションの取り方に課題を抱えている方が多く、経験を積み重ねて行く上で軽減されていくとはいえ、難しく感じる

【学力の向上】の課題や必要な取り組み

回答
学習へ対する苦手意識が強い方が多いため、利用する事業所で取り組んでもらうが、取り組ませることへの難しさを感じる

【食を通じた健康な身体の育成】の課題や必要な取り組み

回答
自治会への「回覧」チラシを作成し、レシピ等を掲載
高齢者でも短時間で一日三食の食事を作って、しっかり食べていただく
高齢者の方は食が細く、肉や魚より野菜中心になる。男性の高齢者は提案や助言を拒む方が多い
いせはらまめの会（NP0）に所属しており、じゃがいもとたまねぎを比々多小学校へ寄付している
なかなか食事の内容までは聞く事ができないが、年に一度の「レシピ」と「チェックシート」好評だが、「レシピ」は毎年変えて頂くと喜ばれると思う
○バランスの良い食事が大人でもとれていない ○1日3回の食事をきちんと時間を決めて食べる。 ○子供の頃から塩分を減らした食事をする
ここ数年芋掘り体験学習事業に取り組んでいるが、食育、農業教育のささやかな支援になればと思う
畑で食物を親子で育て、収穫しています
教育・保育施設等において提供する給食及び補食において、必要となる栄養及び量を摂取できるよう、食育を実施する
・思春期から青年期の朝食欠食者の増加 ・0～30歳代女性のやせの増加 ・20歳代で、食育へ関心のある人が少なく、食事づくりやその手伝いをしている人が少ない
障害特性により、食べられるものが限定されており、一般的な健康な身体の育成をどう捉えていくか、難しいと感じている

【自然体験活動・学習の提供】の課題や必要な取り組み

回答
ひきこもりも興味のあるものに気を向かせ自然体験を通していく
さつまいも掘りやいちご狩りを実施している。みかん狩り
主に小学生を対象に青少年の健全育成を図る
どのような課題⇒場所の確保。必要な取り組み⇒施設等の整備
体験学習の参加者が少ない（内容にもよる）。子供たちが興味を持つイベントなどにすること
自然とふれあえる施設、環境の整備
ケガの防止策を子供のみならず若い親もしらないのを前提として、色々と体験させる
鱒の掴み取り、調理等
低額で体験学習などが出来る場所を探す事
自然体験活動（マスのつかみ取り）
体験学習の主宰。さつまいもの栽培と収穫（芋掘り）作業
自然体験活動・学習の提供できる場所がなく、スタッフメンバー個人の土地を借りて、芋掘り体験などの活動を実施中。伊セ原市主体で、安定した土地の提供はできないものか？
子供たちへの自然体験学習
学校、家庭の協力とジュニアリーダーの育成すること
公園や緑地を活用して安全な場所で体験活動を行う
・団体員の不足、高齢化、女性団体員の少なさ

回答
・企画のための情報（場所や内容）が不足。ワンパターンになりがち
自然体験は、とても大切な体験だと思います。 便利な世の中になり過ぎているからこそ 自然の中で自炊体験通じてコミュニケーション とる活動を増やすべきだと思います
伊勢原市には、活動できる場所が少ないのが問題
我々が企画したものが、子供たちに受け入れてもらえるか？ 当日は楽しんでもらえるか？ルールを守って楽しめるか？ が、いつも企画の中での悩みどころです。
活動拠点からの移動範囲や時間的な制約がある中で、事業内容が固定化の傾向があり、新たな事業内容を立案することが難しい
同上 子どもたちに農に関する興味が湧き、楽しみ方や喜びを味わえることに対する理解が徐々に広まっていけば嬉しく思う
課題：活動費用 工面
今年度より青少年指導員になったばかりでまだよくわからない
そこにあるもの、あるいは何もなくても、自由な発想で遊ぶことが出来ることを発見してもらいたいし、気付いてもらいたい
高部屋地区青少年指導員の活動として日向山荘で少年地域体験学習事業を行っているが、川を使用する上でこの先継続的に活動の場所として使える場所がなくなってしまうのではないかと懸念しております
地域の青少年にこの土地の自然や歴史をもっと知り、その理解によって自分の地元を愛し大切にする気持ちを育むような取り組み
課題は、 体験学習の場所（芋掘りの畑）をメンバーのご好意によって提供していただいているが、その方が引退された場合、場所の確保が難しくなる

【遊ぶ機会づくり】の課題や必要な取り組み

回答
保育クラブでしゃぼん玉遊びを実施している（月１回）
子ども会活動を通じた遊ぶ機会づくり、納涼祭などでかき氷販売、すいか割など
月一回親子が集まり講座を開き、子育て情報交換、育児の孤立を防ぎ虐待防止へつなぐ
保育クラブが毎月１回あり、幼稚園前の親子が参加して、楽しめる行事を実地している。参加する事で、親子同士の コミュニケーションもとれる
こども・親が遊びの体験等な活動を通し、楽しい一時を過ごせるよう提供する
主に小学生を対象に青少年の健全育成を図る
大人が率先にまず遊びを学ぶこと。それを伝えていく
子供達が外で元気良く遊ぶ環境作りを地域や学校、家庭内で構築すること
遊ぶ機会づくりとは、少し違うかもしれませんが、体験学習等を実施して、ふれあう機会と、実施する内容
・団体員の不足、高齢化、女性団体員の少なさ ・企画のための情報（場所や内容）が不足。ワンパターンになりがち
自然の中で楽しめること。その結果、周りとのコミュニケーションできると思う
体験学習事業として、竹工作にも取り組んでいる。 竹の素材を活かして豊かな発想で色々な工作を体験出来る場を提供したい
課題：活動費用 工面
土との触れ合い
1. 課題 自由な遊び時間の減少 学業や習い事、塾などのスケジュールが過密で、子供たちが自由に遊ぶ時間が減少している。 親の働き方や忙しさにより、子供が自由に遊ぶ機会が制限されることがある。 安全な遊び場所の不足 都市部では、子供が安心して遊べる公園や広場が減少している。 遊び場の老朽化や

回答
治安の問題により、親が子供を遊ばせることに対して不安を感じることもある。 デジタルゲームの普及 デジタルゲームやスマートフォンの普及により、屋外での遊びや体を動かす遊びが減少している。 長時 間のスクリーンタイムが健康や発達に及ぼす影響が懸念されている。 多様な遊びの機会の欠如 子供た ちが様々な種類の遊びを経験する機会が少なくなっている。 自由遊び、創造的な遊び、協力的な遊びな ど、多様な遊びが提供されていないことがある。
2. 必要な取り組み 遊び時間の確保 学校や家庭でのスケジュールを見直し、子供たちが自由に遊ぶ時間 を確保する。 週末や長期休暇中に、家族で遊ぶ機会を増やす。 安全な遊び場所の提供 地域社会や自治 体が協力し、安全で魅力的な遊び場を整備する。 老朽化した遊具や施設の修繕・更新を進める。 自然 体験や屋外活動の推進 自然の中で遊ぶ機会を増やすため、キャンプやハイキングなどのアウトドア活動 を推奨する。 学校や地域コミュニティで自然体験プログラムを実施する。 デジタルとリアルの balan ス デジタルゲームの利用時間を制限し、リアルな遊びの時間を奨励する。 親子で一緒に遊ぶデジタルゲ ームや、教育的価値のあるゲームを選ぶ。 多様な遊びの機会提供 地域のイベントやワークショップを 通じて、子供たちに多様な遊びを提供する。 学校や地域のクラブ活動で、スポーツや芸術、手作り遊び など多様な遊びを体験させる
安全な遊び場と遊び方の考え方
少子化もあり、外で遊べる場所自体が減っていたり、遊び方や習い事の多様化で、みんなが集まるような 機会はなかなか作るのが難しい
私の地域にはもともとの青少年の人数が少ないが、まずは地域で遊ぶ機会を作る活動をしていることを知 ってもらい、地域に根ざした遊び、例えばコマ回し大会・ウォークラリーのようなことに取り組めたら良 いと思う

【文化芸術活動の提供】の課題や必要な取り組み

回答
ウォークラリーに関する諸々の活動
子ども達が自分で物を作る楽しみを体験してもらう事の提供
・団体員の不足、高齢化、女性団体員の少なさ ・企画のための情報（場所や内容）が不足。ワンパターンになりがち

【スポーツ活動の提供】の課題や必要な取り組み

回答
スポーツができる環境づくり
ウォークラリーに関する諸々の活動
・団体員の不足、高齢化、女性団体員の少なさ ・企画のための情報（場所や内容）が不足。ワンパターンになりがち

【文化財とのふれあい】の課題や必要な取り組み

回答
ウォークラリーに関する諸々の活動
市内には文化財を見学できる場所があるので活用する
課題：活動費用 工面
自分たちが住んでいる地域のことをもっと知る機会が必要だと感じている（歴史について伝えられる大人 も減っている）。 他地域から引っ越してきた自分自身も、青少年指導員になってから地域のことを知る 機会が増えたがそれまではほとんど分かっていなかった

【子ども・若者の居場所づくり】の課題や必要な取り組み

回答
毎月1回子育てサロンを開催している。0才～3才位の子供と保護者が参加しているが開催場所から遠い方が参加出来ない
防災訓練に参加・夏祭り
孤立しないためのまずは場づくり。活動メニュー、プログラム作成・実施。例えば公民館活用等
小学校・中学校・高校・地域ボランティア、行政の専門家の情報共有が重要
公園で遊んでいると近隣から苦情がきたり、ボール遊びの禁止といった居場に対しての制限がありすぎる為、広く安心して利用できるコミュニティ広場を充実して欲しい
市内には、外国ルーツの子どもが増えている。特に昨年は、夏以降、母国で中学校を卒業してから来日し、県立高校を受検するケースが複数あった。保護者も本人も、日本語が『話せない、読めない、書けない』の日本語ゼロの場合もあった。市内中学校に年齢超過のため転入出来ない子どもたちのために、地域の学習支援・日本語支援教室が必要です
夏休み期間中の学習の場提供
共働き家庭が増える中（特に低学年者）居場所確保は、地域で近所同士でも見守ることができればと思う。「顔の見える近所のおとな」作りが大切と思う
居場所を作る。何時でも、誰かが必ずいる場所、行ける場所
主に小学生を対象に青少年の健全育成を図る
スポーツや遊びを通じて、居場所を作る
公民館、自治会館を使用して、遊び、学習の場作り
・子ども・若者の居場所づくり 独りでなく、人とのふれあい、コミュニケーションのチャンス（場所）づくり
地域福祉を考える会、公民館などと共有活動
昔と違い、親御さんからも厳しくなり、どこまで実施するか？が、課題です
現代ではネット環境内でのコミュニケーションが多くなっているので、対人関係構築のできるコミュニティ、場所、イベント等必要と考えます
子どもたちに公民館まつりの会場などでバルーンアートや缶バッチ作りなどを体験してもらい、まつりを楽しんでもらえれば良い
課題：活動費用 工面
短時間でも地域の方と触れ合うことで気分転換になっていく
1. 課題 居場所の不足 学校や家庭以外で、子どもや若者が安心して過ごせる場所が少ない。都市部では、地域のコミュニティスペースが減少し、子どもたちの居場所が制限されている。社会的孤立 家庭環境や友人関係に問題がある場合、子どもや若者が孤立しやすい。孤立感や疎外感を抱える子どもたちが増えており、メンタルヘルスの問題が深刻化の傾向 多様性への対応 異なる背景や価値観を持つ子どもたちを受け入れるための環境が整っていないことが多い。多様なニーズに応えるためのプログラムや支援が不足している。経済的格差 経済的に困窮している家庭の子どもたちが、居場所や活動に参加する機会が限られている。貧困や家庭の問題が原因で、適切な支援を受けられない場合がある。 2. 必要な取り組み コミュニティスペースの整備 地域社会で子どもや若者が安心して過ごせるコミュニティスペースを増やす。公共施設や図書館、地域センターを活用して、居場所を提供する。メンタルヘルスサポートの充実 学校や地域でカウンセリングやメンタルヘルス支援を提供する。子どもや若者が気軽に相談できる環境を整える。多様性を尊重したプログラム 異なる背景や価値観を持つ子どもたちが交流できるプログラムを実施する。文化的多様性やインクルージョンを促進する活動を増やす。経済的支援の拡充 経済的に困窮している家庭の子どもたちに対して、居場所や活動に参加するための補助を提供する。奨学金や助成金を活用して、子どもたちの居場所づくりを支援する。親と地域の連携 親

回答
や地域の大人が子どもたちの居場所づくりに積極的に関与する。 地域全体で子どもたちを支える意識を高めるための活動を推進する
出来るだけ自主性を重んじ、管理しようとししないこと
子ども・若者の居場所の一つである「こども食堂」への支援

【社会参加支援（ボランティア活動等）】の課題や必要な取り組み

回答
ボランティア活動することにより、他者とのつながりの重要性がつかめる
高齢者の地区の祭り、盆踊り、体育祭等への参加しやすい環境づくりの手伝い
高齢者施設へのボランティア（高齢者とのふれあい）
地域イベントの参画促進
公民館の閉鎖などにより、集える場所が減っている。子供世代だけに限らず、全世代が集えるような場所作りが必要なのではないか？
※陸上審判員
・団体員の不足、高齢化、女性団体員の少なさ ・企画のための情報（場所や内容）が不足。ワンパターンになりがち
社会の一員である認識（相互協力）が薄れているので、いかにして他人と協力しより良い住環境を作っていくことができるか
昨今異常気象、災害の関連事案が増加しており、今後様々な支援事項が増えてくと思われるので個々の認識を深める場が必要と考えます

【子ども・若者による行事等の運営支援】の課題や必要な取り組み

回答
地域のイベントに積極的に参加を希望
高部屋小学校のふれあいまつりに参加している
高部屋小学校のふれあいまつり（年１回）に参加しゲーム等を実施。山王中学校のあいさつ運動に参加している
大人又は、支援サイドの思い込みを押し付けない
体育祭の見守り
地域・学校の各種活動・行事についての参画・支援活動
行事等の運営支援として、「ナイトウォーク」「お飾り作り」を実施
市の取組が他人任せなので、そこを直した方が良い
子供若者による行事等の情報が伝えきれていないと考えます
支援する側とされる側のマッチング手段が課題
1. 課題 運営経験の不足 子どもや若者がイベントの企画や運営に関する経験を持っていないことが多い。 イベント運営に必要なスキルや知識を学ぶ機会が限られている。 サポート体制の不足 大人や専門家からの適切な指導や支援が不足しているため、子どもたちが自信を持って運営できない。 サポートを提供するリソースやスタッフが不足している。 予算や資源の制約 イベント運営に必要な資金や物資の調達に難しいことがある。 経済的な制約が原因で、規模や内容が制限されることが多い。 コミュニケーションの課題 子どもや若者同士、または大人とのコミュニケーションが円滑に行えない場合がある。 チームワークやリーダーシップの不足により、計画や運営がスムーズに進まないことがある。
2. 必要な取り組み 教育とトレーニング イベント運営に関するワークショップやセミナーを開催し、基本的なスキルや知識を教える。 学校や地域のプログラムで、実際にイベントを企画・運営する機会を提供する。 メンターシップの導入 経験豊富な大人や専門家をメンターとして招き、子どもたちにアドバ

回答
イスやサポートを提供する。メンターが定期的に指導やフィードバックを行い、運営スキルの向上を図る。資金調達とリソース管理 クラウドファンディングや助成金申請を通じて、必要な資金を調達する方法を教える。企業や地域団体との協力を促進し、スポンサーシップや物資の提供を受ける。コミュニケーションスキルの向上 チームビルディング活動やコミュニケーションスキルのトレーニングを実施する。効果的なミーティングの進め方や問題解決の方法を学ぶ機会を提供する。評価とフィードバックのシステム イベント終了後に評価会を行い、成功点や改善点についてフィードバックを行う。成功体験を共有し、次回以降のイベント運営に役立てる
口は出さないで見守る 彼らを信じること
何かを企画した時に、指導員の大人だけではなく代表となる子供と一緒に関わってもらい行事を運営できたら理想的だと思う
各種行事には個人参加のみであり、参加者の組織化が出来ていない

【青少年リーダーの育成】の課題や必要な取り組み

回答
主に小学生を対象に青少年の健全育成を図る
どのような課題⇒育成者の減。必要な取り組み⇒ボーイスカウトなど他団体への委託・連携
ジュニアリーダーなどになってくれる人財がいない（少ない）。地域の子供たちと交流しながら育成していくこと
ジュニアリーダーの活動連携・支援
青少年の健全リーダーをやることで、どのようなメリットがあるのかわからない
なり手がなく年々規模が縮小されており、子どもと大人のコミュニケーションが減ることに対する対策
来年度からジュニアリーダー制度がなくなることへの対応が課題
各地域で子どもの減少が見られ地区の行事に参加することが減り、各自が個別行動を取ることが多くなりリーダー自体が不要な環境になってきつつあるように感じます
上記のような運営をするために必要な考え方や知識を習得するための研修会などへの参加を促し、リーダーを養成する
青少年が行う行事を通じて、青少年の方々の新たなコミュニケーションづくりや組織化が出来ていない

【就労能力・意欲の育成（職業教育等）】の課題や必要な取り組み

回答
就労について毎日通う「力」があると思いますが、意欲がないのか腰の痛みを訴えられるので、通院同行し、医師とも話しました。少しずつ通所の日にちを増やせるように話しています

【就労支援（職業体験等）】の課題や必要な取り組み

回答なし

【いじめ防止、被害者・加害者への支援】の課題や必要な取り組み

回答
近隣との連携
小学校及中学校の情報交換会等で、知り得た情報を元に出来る事、協力出来る事をやっておりますが、個人情報のカラミもあり詳細が不明な点が多い。市が知り得た情報を流してくれたら、諸々の支援及対策が出来ると思いますが、無理でしょうか？（個人が特定出来ないとアプローチ難）
大人の差別的な発言等がある。社会全体が一人ひとりを大切に思う余裕がほしい

回答
情報がないため、取り組みがない
学校運営委員会を通じて高部屋小学校、山王中学校、学生の見守り、情報交換を行っている
個人情報等で非常に情報の共有化が難しいが、家族のことなのか、友人等の問題で発生するのかなど出来たら知りたい
まずは現状の把握が必要だと思います。デリケートな問題なので、相談しやすい環境作りも大切だと思います
小学校・中学校・高校・地域ボランティア、行政の専門家の情報共有が重要
隣、近所の住民等の聞き取り、様子等を伺う
遊びといじめの境界線を認識するのは当事者も周囲も困難なことだと思う。最近は SNS を通してのいじめが主流であることから、いじめを特定するのはより難しくなっている。いじめを受けている本人やそれに気づいている友人が周囲に相談できる環境づくりが必要である。また、いじめと考えられる行為を「よくあること」「ちょっとした遊び」と思わせない社会づくりがより必要だと思う。
いじめ、不登校、ひきこもりの子どもたちに心をひらいてもらいたいと思っています。地域のイベントに参加してもらうようなことができないか？ ◎先生をふくめ、親と情報交換できるような話し合いができれば、いいと思います
いじめがエスカレートしてしまうと、自殺してしまう事もありえるので、話して聞いてあげる支援が必要
学校と地域の連携が必要
いじめは被害者のとらえ方で、発見がおくれる
いじめは、他者の目につかない様に進行するので行動や顔の表情、発言、に早く気付く
いじめ防止基本方針に基づいた対応の徹底、教職員への周知、研修の在り方等

【不登校児童・生徒への支援】の課題や必要な取り組み

回答
小学校及中学校の情報交換会等で、知り得た情報を元に出来る事、協力出来る事をやっておりますが、個人情報のカラムもあり詳細が不明な点が多い。市が知り得た情報を流してくれたら、諸々の支援及対策が出来ると思いますが、無理でしょうか？（個人が特定出来ないとアプローチ難）
話が聞けたらですが。時間をかけて、学校に行ける様に児童によりそう
学校からの情報提供があれば、地域でのそれとない見守りが可能
家庭環境の改善、安心してらせる場づくり
地域との関わり
不登校の児童・生徒へのかかわり方は、やはり長く時間をかけないと会ってもいただけなかったもので、短い時間では難しいと思いました。小学校から不登校になる子供も多く、同じ専門の方に長くかかわっていただくのが良いと感じました
情報はあっても公開情報ではないため接触の機会をどのようにするかが第一関門。粘り強く、さりげないアプローチで対象の方に猜疑心を抱かせない様にするのが難しい
学校からの情報提供がない
学校との連携が必要不可欠です。家族内の関係なのか、学校内の関係なのか、出来る限り情報が欲しい
まずは現状の把握が必要だと思います。デリケートな問題なので、相談しやすい環境作りも大切だと思います
特に直接支援はしていないが、見まもり程度をしている
小学校・中学校・高校・地域ボランティア、行政の専門家の情報共有が重要
支援対象者を発見し、接触すること。行政からの情報提供があれば動き出せる
保護者によりそい、保護者の気持ちをゆっくりと理解する。教育センター等につなげる。児童の学習支援をする。あせらず待つてあげる

回答
昨今、自殺予防からか、学校に無理して行かなくていい、嫌なら逃げていいんだという風潮がある。確かに、命は、失われたら戻って来ないので、その通りなのだが、学校を何日か休んだ後、学校（社会）に戻るための出口戦略も必要だと思う。また、学校を休んでいる間の学習をどう補うのかも考えなければならない
対象児童の家庭内のことなど把握できれば、関係機関に伝え対処してもらおう。課題は、家の中のことをまず把握しづらいし、関係機関に伝えてもどう対処してもらっているのかわからない
学校との信頼関係や近所の子どもへの気付き
・課題・・・様々な関連機関へ速やかに適切につなぐ為に本人、家族の考えや想いを楽に話せる人や場を確保する。専門機関の人材強化。 ・取り組み・・・学校や家庭以外の場で本人が過ごしたいと思える場があるのかを知る。そのような場が無い場合に提供出来るように環境を整える。
不登校や家庭生活で心配がある子どもがいるのか、いた場合にどのような支援ができるのかを小学校と民生委員児童委員が相談したり情報交換する機会がない
登校出来なくても、友達を通して繋がりをつくり、放課後の学童保育に参加を促している方がいらっしゃる
不登校の生徒に寄り添って、一緒に登校したり、家にいても顔を合わせたりできるようにしたいと思いますが、なかなかその生徒と接することが難しいです
いじめ、不登校、ひきこもりの子どもたちに心をひらいてもらいたいと思っています。地域のイベントに参加してもらうようなことができないか？ ◎先生をふくめ、親と情報交換できるような話し合いができれば、いいと思います
不登校児童の把握とその家族へのケア、見守り
相談のプロをどの程度、現場におくれるか
教室に居場所が持てない児童の避難場所や不登校状態から学校復帰するための通過点として「別室登校」のニーズがあっても、特に小学校で取り組みが遅れている。人と場所の確保、運用の仕方などが課題
居所不明などにつながる可能性もある。実態がみえにくい
不登校の児は、救ってあげる制度・支援が狭くなってしまう
不登校の正しい理解、学校以外の居場所
発達障害による認知の偏りがみられ、そこから発生する家庭内暴力に対して、保護者が毅然とした関わりができず不登校に至るケースの支援の難しさを感じる
不登校の方をどう登校へ結びつかせるか、学校側との連携の取り方にも難しさを感じるし、そもそも不登校で社会との関わりが少ないために放課後等デイサービスなどで関係性を学んで欲しいと考えても、完全不登校だとサービスを使えないという制度もあり難しさを感じる
スクールカウンセラーの活用→福祉サービスへ繋がり連携を取る 教育相談→適応指導教室へ繋がり、必要性を感じた保護者が福祉サービスへも繋がる事が出来る

【ひきこもり支援】の課題や必要な取り組み

回答
小学校及中学校の情報交換会等で、知り得た情報を元に出来る事、協力出来る事をやっておりますが、個人情報のカラミもあり詳細が不明な点が多い。市が知り得た情報を流してくれたら、諸々の支援及対策が出来ると思いますが、無理でしょうか？（個人が特定出来ないとアプローチ難）
むずかしいがゆっくり話しをし、興味のある方に目を向けさせる。決して強要はしないが
家庭環境の改善、安心してらせる場づくり
学校運営委員会を通じて高部屋小学校、山王中学校、学生の見守り、情報交換を行っている
ひきこもり家族から相談があった時は相談機関を紹介する

回答
ひきこもりの方は、外に出ることも少なく、情報もないため、こちらで知ることもできません。ひきこもりの方が相談できるところを広くお知らせしていただき、（その家族）そこから民生委員等に相談いただけると有り難いと思います
情報はあっても公開情報ではないため接触の機会をどのようにするかが第一関門。粘り強く、さりげないアプローチで対象の方に猜疑心を抱かせない様にするのが難しい
ひきこもりの子どもをかかえている高齢者、いわゆる 80-50 問題。声がけをしているが、子ども世代との接触ができない。親がなくなった後の経済状態が心配
具体的な実態把握が難しい
カウンセラー等専門家による支援
学校からの情報提供がない
とにかく情報が乏しい。包括支援センターから情報をもらっても対象者の対応がどの様になっているかわからない。行政は個人情報なので教えられないとことわれる
まずは現状の把握が必要だと思います。デリケートな問題なので、相談しやすい環境作りも大切だと思います
本人・家族も悩み苦しんでいるが、外からは分からず、外へ向けて発信することも難しい。どう気付き接するきっかけをどうつかむか課題
実際、地区内に 50 代の息子さんと 80 代のお母さんの二人暮らしの息子さんが引きこもりの件で、最近、息子さんの状態がわかり、市に連絡したが、なかなか外からはわかりにくい
1 名対象者がいますが、訪問しても会うことが出来ない
支援対象者を発見し、接触すること。行政からの情報提供があれば動き出せる
一般的にあまり見えてこない問題であり、しかしその取り組みはとても難しい。ご家族の理解と行政との連携、民生委員との情報交換等、実施できることは沢山あると思う
家庭にどこまで関われるか難しい
支援を必要としている方がどこにいるのかわからない
不登校児童支援に同じく
民生児童委員が直接支援できるものではないが、ひきこり者を発見した時に適切な支援機関に引き継ぐことが重要だと思う。しかし、同じ地域に住んでいても昔のようなオープンな付き合いがないのが大半を占めている状況だと思う。このような中でひきこもり者を見つけ出すことがとても困難になっている
ひきこもりに至った背景がそれぞれ違うと思うので、「私達は、あなたを見守っていますよ。」とチラシ配布等をして存在をわかってもらう
ひきこもっている人がいて訪ねても、居留守を使われてしまう。接することが難しい
いじめ、不登校、ひきこもりの子どもたちに心をひらいてもらいたいと思っています。地域のイベントに参加してもらうようなことができないか？ ◎先生をふくめ、親と情報交換できるような話し合いができれば、いいと思います
中学校卒業後、相談機関や居場所があってもなかなか本人や家庭の力で利用に至らないケースがある。アウトリーチしてくれるような支援機関が近く（市内）にあるといい
ひきこもりの状態にある当事者が来所相談することが難しく、社会と断絶している状態にもあることから、経済的に困窮している場合に、声をあげにくい状況もあり、生活実態のわからない課題があるため
具体的な支援・施策が少ない。実態がみえにくい
・ひきこもり状態にある方が潜在化しており、明確な人数、存在が把握ができないことが課題であり、基礎自治体がどれほどの予算と職員の体制を整えてよいのか明確でない ・「ひきこもりの状態となることは誰の身にも起こりうることであり」と、県民に正しく理解していただくことが必要である。そうすることにより、家族からの相談のハードルが少しは下がると思われる。

回答
・ひきこもりの状態から社会参加までには、非常に時間を要することが多いため、その時々に必要な支援の内容が異なる。また、その間に支援者が変わってしまう場合も多い ・一人ひとりひきこもりの背景や困りごとが異なるため、臨機応変な対応が必要となるが、そのノウハウの蓄積が支援者側に少ない ・ひきこもり状態にある本人が、自分に合った支援につながるができるよう、多様な選択肢を設ける必要がある（相談、居場所、メタバースによる居場所など） ・相談支援から就労支援（サポステ）までの間のハードルが高すぎるため、その間を埋めるための支援が必要である（コミュニケーション講座やボランティア体験など）
障がい支援に関わる中で 80、50 問題に課題を感じることがあります。高齢の親と障がいのある子ども（家族）がいるケースでニーズの掘り起こしや、病識理解、親なき後の生活基盤などさまざまな課題が存在します。そのため切れ目のない支援を行うための高齢障がいに精通する支援が必要と思います。障がい支援介護保険などとサービスで分けなくても柔軟に利用できるサービスがあると良いと思います
不登校の児は、救ってあげる制度・支援が狭くなってしまう。人と関わってくれるひきこもりはまだ良いが、人と会いたくないひきこもりは支援が出来ない
精神疾患をもっている場合、未治療のケース
完全な引きこもりの方はいないが、不登校から引きこもりになる可能性を感じ、そうならないためにどうしたら良いかに難しさを感じる
ご家族が講演会などに参加したり、事業所に電話相談したりするなどあるが、ご本人が外へ出ることを希望していないケースが多くなかなかその先の支援へ繋げることが難しい

【貧困世帯への支援】の課題や必要な取り組み

回答
家庭菜園での収穫野菜等をお届けする（団体としてではなく、個人的として）。
こども食堂（親子で食事が出来ると良い）
50 代の長男が 80 代の認知症の母親を介護しているが収入が少ない為、生活が苦しい。戸建の自宅と田畑がある為、生活保護が受けられない
フードバンクの活動によって大変助かっているという声を聞きました
社協事業への情報提供
物価高の中、生活保護家庭、ひとり親家庭は毎日の生活で困窮している。現在も、公的な支援金が申請によって支払われているが、「焼け石に水」の状態の様子である。ご一考を
学校運営委員会を通じて高部屋小学校、山王中学校、学生の見守り、情報交換を行っている
貧困しているのか、近隣でも解かりづらい（御本人の申出を待って調査とは思いますが…）
生活や就労に関する相談について、一箇所ですべて的に対応し、一人ひとりの状況に合わせハローワークや社会福祉協議会、民間支援団体等と連携して自立に向けた支援を行います
生活が困窮すると、全ての土台が崩れる。最低支援が必要
金銭的な支援相談が多い
切迫している場合、落ちついて対応する（させるのが）難しい。生活が荒れているが、本人が改善を望まない時もある。粘り強く、見守り続けるほか、無い
ひとり暮らしの高齢者、少ない年金で暮らしている。ひとり暮らしの登録等、行政とのつながりを勧めても、拒否をしている。近所との関係も良好とはいえない
生活保護受給の方の氏名は、役所からの通知で把握できますが、民生委員として、どこまでかかわることができるのか、ご本人の意向の確認等、もう一歩踏み出せません
経済的支援

回答
まずは現状の把握が必要だと思います。デリケートな問題なので、相談しやすい環境作りも大切だと思います
・ 貧困の連鎖を断ち切る—強い意志が必要。 ・ 利用できる制度・サービス・情報を広報で提供してほしい
社協の年末たすけあい援護金の配布等
特に直接支援はしていないが、見まもり程度をしている。社協さんから「生活応援配分」の実績などを情報提供は、貧困世帯へのアプローチがしやすい
十分な支援は出来ていないと思われる。必要としていても市、行政が理解している範囲で民生委員等と情報共有できなければ見のがしてしまことも多いのではないかな？
課題…個人情報保護法の壁 ◎貧困の状況把握が難しい
住民によりそい、お話をきいてあげること。市の支援につなげたい
行政機関等へ連絡、支援物資等の配給
近年、低所得、経済的困窮状態にある家庭が増えているのを感じる。特に外国ルーツの母子家庭は、非正規雇用で、在留資格の問題もあり、経済事情は厳しい。児童扶養手当、就学援助制度等、制度や福祉サービスの案内や相談にのっている
年末の援助金申請を勧めたり、時々ある物資の配布があることを知れば連絡する
生活に困っている世帯への情報提供
地域内で、個人情報の壁がありどのようにして貧困所帯を把握することができるのか？
支援を必要としている世帯が見ただけではわからない。積極的な声かけもためられる
支援金や支援物資の配布
働く意欲があっても病気、障がい等が在る方には、積極的に職場の斡旋をして頂きたい。
オンライン申請の導入等新たな試みを始めるに至っては、申請方法が煩雑にならないよう制度の研究と学校側との調整が不可欠である
貧困世帯の把握
経済的支援、お金の使い方への支援が必要
障がい支援に関わる中で 80、50 問題に課題を感じることがあります。高齢の親と障がいのある子ども（家族）がいるケースでニーズの掘り起こしや、病識理解、親なき後の生活基盤などさまざまな課題が存在します。そのため切れ目のない支援を行うための高齢障がい者に精通する支援が必要だと思います。障がい支援介護保険などとサービスで分けなくても柔軟に利用できるサービスがあると良いと思います
とても多い。フードバンク等、情報提供しているが限りがある

【非行や犯罪被害の防止】の課題や必要な取り組み

回答
学校運営委員会を通じて高部屋小学校、山王中学校、学生の見守り、情報交換を行っている
高齢者の“自分は関係ない、自分だけは大丈夫”という根拠のない自信には、消費者講座・防犯講座等の啓発が必要。若者が闇バイトに引きこまれぬよう教育が必要
主に小学生を対象に青少年の健全育成を図る
青少年への啓発。地道に子供たちとコミュニケーションをとっていくこと
地域パトロール・啓発活動
愛のパトロールを実施しているが子供たちの実態把握が必要
・ 非行や犯罪被害の防＝ ・パトロール実施にて、「見ていますよ」アピールも含め
あいさつ運動の強化をすべきと思う
青少年の健全育成に関する標語看板を設置しているが、啓発になっているのか懸念される。SNS 上のトラブルから犯罪に繋がる例が多くなっているため、SNS を活用した啓発をもっとやるべきと思う

回答
駅前や公園等コミュニティスペースの改善、子供に対しては親子関係の強化、何でも話し合える環境にしていく為の場所を提供
課題：非行や犯罪に至る原因究明
1. 課題 家庭環境の問題 家庭内での虐待やネグレクト、親の監督不行き届きが非行や犯罪被害の原因となることがある。経済的困窮や親の離婚、家族間の不和などが子どもにストレスを与え、非行につながる可能性がある。教育機関の対応不足 学校でのいじめや不登校が非行の原因となることがある。早期発見や対応が不十分で、問題が深刻化することがある。地域社会の支援不足 地域での支援ネットワークが不十分で、子どもや若者が孤立しやすい。地域コミュニティが犯罪防止に対する意識や協力体制が整っていないことがある。インターネットの危険性 SNS やオンラインゲームを通じて、犯罪に巻き込まれるリスクが高まっている。インターネット上の悪意ある情報や詐欺に対するリテラシーが不足している。精神的・心理的サポートの不足 メンタルヘルスの問題や心理的なサポートが不足しているため、問題行動を未然に防ぐことができない。心理的な支援を受けるための窓口が少ない。 2. 必要な取り組み 家庭への支援強化 家庭環境の改善を目的とした支援プログラムを提供する。親への教育やカウンセリングを通じて、子育てのスキル向上を図る。教育機関での取り組み いじめや不登校の早期発見と対応を強化するためのプログラムを導入する。学校でのカウンセリング体制を充実させ、心理的サポートを強化する。地域社会の協力体制 地域全体で子どもや若者を見守るためのネットワークを構築する。地域コミュニティでの防犯活動や啓発キャンペーンを実施する。インターネットリテラシー教育 学校や家庭でインターネットの安全な使い方に関する教育を行う。オンライン上での危険に対する対策やリテラシーを向上させる。メンタルヘルスサポート 子どもや若者のメンタルヘルスを支えるためのカウンセリングや相談窓口を増やす。心理的な問題に対する早期介入を行い、非行や犯罪行動を未然に防ぐ。青少年活動の促進 スポーツや文化活動を通じて、子どもや若者が健全な興味や関心を持つ機会を増やす。地域のボランティア活動やクラブ活動に参加することで、社会とのつながりを強化する 地域のパトロールなどを行い非行や犯罪の防止に努め、必要な時は関係機関との連携を取る 日頃から子供達との挨拶やコミュニケーションを促し地域の大人との信頼関係を築く

【情報モラル教育、有害情報対策】の課題や必要な取り組み

回答
現状伊勢原市として取り組んでいる内容や現状を、市民が周知する事がまず大切と考える
SNS 対策・対応の呼びかけ・宣伝
青少年活動が工作や遊びの場の提供のみで、青少年のリーダー育成や社会的道德教育など出来ていない

【児童虐待防止】の課題や必要な取り組み

回答
大人のイライラが児童虐待につながっていると思う。一人で悩みをかかえこまない人間関係を作りたい
弱者に対し（子供）親の不満（イラダチ）からあたりちらす
家庭環境の改善、安心してくらせる場づくり
地域の子どもたちの様々な情報をキャッチできるようアンテナを張り、情報を得た場合は速やかに市町村、児童相談所に通告します
親の道徳的意識の欠落を、親本人にも周囲が強烈にアピールすることが必要
表に出てこない虐待、ネグレクトや、両親の不和、登下校の小学生の見守りをしているが、今のところ気になる児童はいない。元気に登校し、家に帰るのが嬉しそうで、安心している
まずは現状の把握が必要だと思います。デリケートな問題なので、相談しやすい環境作りも大切だと思います

回答
虐待防止の啓発も必要。親への支援が重要
地区内では子供の数は少ないが、いつも激しく泣いている子がいたら、通報する
課題…個人情報保護法の壁 ◎隣近所の情報が得にくい
隣、近所の住民等の聞き取り等、必要であれば警察、児童相談所等への連絡
今は、核家族、更に、ひとり親家庭も増えて、外から児童虐待を見つけるのは難しい。認定子ども園、小学校、中学校、子ども家庭相談課、児童相談所、スクールソーシャルワーカーさん方と連携協働して、見守っている
セクハラや虐待は問題意識が食い違うことが多い。入り込むのには高いハードルがあるので、児童を取り巻く関係機関・専門職など、それぞれ情報共有が必要と思う（見守る為の個人情報保護が見えない壁となっている）。
近所の人の情報提供、
近隣住民や保育施設などの情報をどのように各機関が適切に判断し、共有できるか
課題・・・「児童虐待」行為や「乳幼児や子どもの特性」について保護者や養育者の認識が足りない事。「虐待行為」をしてしまう人が「困っている事」を相談しやすい環境が整っていない事。
取り組み・・・「虐待防止」と「子どもの特性と関わり方」の啓発。「困っている」事を相談しやすい環境作り
担当地域に対象者がいない為、取り組んではいない。情報提供があると良いが
身体的なキズ・ケガ等に加え、精神的な虐待等が疑われる場合において、速やかに関係機関に共有できるような体制づくり
関係機関との連携の充実性
対応件数が非常に多く、細やかな支援が行き届かないことがある
虐待を受けて育った子どもの中には、心身の不調を訴え、引きこもりにつながることも少なくない。引き続き、虐待防止に向けた地域全体での見守り体制の構築が必要
職員に対する知識向上、啓蒙活動、一時保護入院後の円滑な退院調整（一時保護施等の不足）
業務上関わる事が多いが、氷山の一角の様に思えてしまう。学校との連携が必要と思うが、なかなか難しい
【課題】 ・家族が子どもの状態の理解を深めるきっかけがつかめない事。 ・相談員としては家庭に直接介入できる機会が少なく、関係性も築きにくい（時間がかかる）ことから、直接処遇にあたっている関係機関の行うアセスメント情報が重要になってくる。アセスメントが取りにくい家庭の場合、状況把握までに時間がかかってしまう。 【取り組み】他機関連携（ケース会議等）、見守りがほとんどである

【自殺対策】の課題や必要な取り組み

回答
学校生活や家庭生活で自分の考えを話せる場があることが大切と思う
学校からの情報提供がない
いじめがエスカレートしてしまうと、自殺してしまう事もありえるので、話して聞いてあげる支援が必要
オーバードーズといった、中高生へのかげ薬などの過量服薬で、搬送されている方が増えている。小学校中学生から薬物や SNS の依存度がたかくなることで、自殺企図をしにくくなる

【子ども・若者への相談支援】の課題や必要な取り組み

回答
子ども、若者が今、何になやんでいるか？の要因分析をし、次に繋げる
子ども、若者が、他の人に心を開かず、自分で悩む、抱える、と聞きおよびます。相談できる人はだれか？（親・学校の教師ではないようです）。同年輩の友人か？
支援を必要とする対象者を見つけにくい
住民によりそい、お話をきいてあげること。市の支援につなげたい。いろいろなボランティア活動を紹介し、自分は、役立っている、必要とされている…という経験をするにより、自信につながる
子どもたちから、直接、話を聞く機会は少ない。やはり居場所作りが必要だと思う。外国ルーツの子どもたちの学習支援・日本語支援教室をやっている。そこでは、子どもたちが母語で活発におしゃべりしている。子どもたちには、安心安全な基地が、学校家庭以外にも必要で、信頼できる大人が相談役でいてくれると良い
気軽に相談できる仕組み作り、（家族からの相談もふくめ）電話、対面だけでなく SNS／LINE の活用も始まっていますが、更なる活用の呼びかけ
「相談・支援」環境へアプローチし難い
学校や自治会との連携を強化し、子どもや若者に地域の中でどのような支援ができるのかを探し行っていくことが民生児童委員としてできることだと思う
公民館に相談窓口等の設置、訪問指導他
子ども、若者への相談支援 もし、そう言う機会になったときに、しっかりと良方向にむけてやれるか？
中学校卒業後、相談機関や居場所はあってもなかなか本人や家庭の力で利用に至らないケースがある。アウトリーチしてくれるような支援機関が近く（市内）にあるといい
経験の浅い職員も多く支援技術の向上が課題
不適切な養育環境の中で育った子どもたちのなかには、その後精神的な不調をきたすこともあり、相談支援の継続が必要である。基幹相談との連携
義務教育の間は、その存在が不登校や非行として、誰かしらその存在を把握しているが、義務教育を終了した後、高校に進学しなかった場合、進学したが中退した場合（大学も同様）、支援機関の年齢制限等により、その存在が誰からも見えなくなってしまう。こうした子ども・若者が、必要な時に必要な機関とつながることができるように、切れ目なくその存在を把握し、支援または見守る人（機関）が必要である
ひきこもりの状態にある当事者を含め、生きづらさを抱えている人が、より相談しやすい体制の整備とその窓口を認識することの周知の必要性
【課題】直接子どもと関わる機会がない

【家族への相談支援】の課題や必要な取り組み

回答
障害者・ひとり親世帯への支援
家族のなやみを聞き、相談し、関係機関へとつなげる
おおきなお世話としかられるが少しずつでも意志そつうをはかる
独居のご婦人で、足が不自由な状態にある。定期的に見守りはしている。支援包括センターに依頼しているが、別居の息子さんとの話し合いが進まず、ひとりで不衛生な家の中で生活されている。ケアマネもついているが生活状態はいつこうに改善されていない。包括センターの動きが鈍いのか、どうしたらよいのか、心配である
要介護者の介護をしている人との会話
家庭教育全般に関連すると感じます（基本は、親（夫婦）。の意識）
家族との連絡が取りづらい

回答
家族や、ご近所との関係がうまくいっていない高齢者からの相談。解決はできないが、話を聞くことで、少しでも心の負担を軽くしてあげたいと思う
支援を必要とする対象者を見つけにくい。当事者だったら、近所の人へ（専門知識のない人）相談するのは、ためらう
課題…個人情報保護法の壁 ◎家族との関わり方が難しい
住民によりそい、お話をきいてあげること。市の支援につなげたい
家族から相談してこない、わからない
民生児童委員も仕事を持ちながら活動している者が多くなっている状況があり、担当地域を一戸一戸回って歩くのは困難である。「子ども。若者への相談支援」と同様に、自治会との連携の中で困っている家庭を見つけ支援を行っていくことが必要
中学校卒業後、相談機関や居場所はあってもなかなか本人や家庭の力で利用に至らないケースがある。アウトリーチしてくれるような支援機関が近く（市内）にあるといい
多様化する子育てや保育に関する相談に対し、寄り添ったきめ細かい相談支援
家族が「就労は無理」と決めつけ、積極的に安定所を利用していただけない場合がある
経験の浅い職員も多く支援技術の向上が課題
子どものそばにいる母親の支援。集いの場だけでなく、問題解決に至るしくみを、市や基幹相談で作ることが急ぎ必要ではないかと感じる
家族の困りごとと本人の困りごとが一致していないことが多い。本人は自分の身を守るために不登校であったりひきこもっている状態であるにもかかわらず、安易に背中をおすと、家の中が安心・安全な場でなくなってしまうだけでなく、家族が自分の気持ちをわかってくれないことで関係性が大きく崩れてしまい、その修復が困難となることがある。家族の焦りや不安を受け止めつつ、こうしたことへの家族の理解を深めていただく必要がある
ひきこもりに対する家族の理解と、その家族の状況や心情に寄り添った適切な支援を行う相談員や支援員等のスキルアップの確保
障がい支援に関わる中で 80、50 問題に課題を感じることがあります。高齢の親と障がいのある子ども（家族）がいるケースでニーズの掘り起こしや、病識理解、親なき後の生活基盤などさまざまな課題が存在します。そのため切れ目のない支援を行うための高齢障がいに精通する支援が必要と思います。障がい支援介護保険などとサービスで分けなくても柔軟に利用できるサービスがあると良いと思います
保護者に発達障害の傾向が見られる場合、コミュニケーションの取り方の難しさが、相談支援の専門性を必要とする。相談支援専門員が1人80～100 ケースを担当しないと相談支援事業所が単体で経営出来ない報酬に難しさを感じる
【課題】 家族の障がい受容 ・家族関係についての支援
【取り組み】 モニタリングは家庭訪問を基本として行い、家庭環境を観察する

【ヤングケアラーへの支援】の課題や必要な取り組み

回答
小学校及中学校の情報交換会等で、知り得た情報を元に出来る事、協力出来る事をやっておりますが、個人情報のカラムもあり詳細が不明な点が多い。市が知り得た情報を流してくれたら、諸々の支援及対策が出来ると思いますが、無理でしょうか？（個人が特定出来ないアプローチ難）
ヤングケアラーという言葉がどの範囲までを言うのか（家族のケアは当たり前と思う人も）支援するのもむずかしいです
親の介護によって子どもの生活ができないようなことを見かけてもどんな支援をしたら良いかわからない
対象者がつかめないため、取り組みがない

回答
家庭環境の改善、安心してらせる場づくり
隠れヤングケアラーを無くしたい。介護保険制度等利用強化
この内容はほとんど情報が無さすぎる。家庭内の事だからあまり云いたくないと思うが、手助け出来ることは限りなくやりたい
課題…個人情報保護法の壁 ◎当事者の考えを理解すること
家庭状況の把握
スクールソーシャルワーカーさんに入ってもらい、必要な支援に繋いでもらうのが良いのでは？
当事者がどのように支援を受けられるか 若者が情報を得やすい工夫ができているか
課題・・・「ヤングケアラー」の周知不足。本人が周囲に相談し難い。
取り組み・・・啓発。相談しやすくなるよう環境を整える。支援体制を整える
学校単位で、ヤングケアラーとはどう言う状態なのか授業で取り扱う。 相談する事は恥ずかしいとか、秘密にする事でなく、自分には教育を受ける権利がある事をわかってもらう
ヤングケアラーかと思えても、そのご家族には当たり前の事のように、なかなか立ち入ることが難しい
ヤングケアラーへの支援 これも、機会にあったことはないが、あった場合どこと連携すればよいのか？
具体的な支援策、施策が少ない。実態がみえにくい
早期発見と当事者に対する意識改革及び関係者への普及啓発
【課題】 担当する障がい児のきょうだいがヤングケアラーであった事に気づいた時。 保護者が問題意識をもっておらず「家族として当然」という環境の中で炊事、通訳（親が外国籍）、親の介護等を行いながら家の都合で学校を休みがちになったり、多感な時期に家庭環境にストレスがあり親に相談が出来ず辛い思いをしているきょうだい児のケアが必要と感じられた時に、どの機関へ連携を取ったら良いのか。支援者側が『心配だ』と感じた時点で状況を見守ってくれる機関があるとよい。担当者としては家族から申請がないときょうだいの事に関しては介入できない

【医療や福祉サービスの提供】の課題や必要な取り組み

回答
地域性もあり、交通機関がバスしかなく、体調がすぐれない場合はタクシーを利用するしかない。毎回通院にタクシーも使えず、病院の診察をあきらめるお年寄が多い。タクシー券等のサービスをもう少し改善してくれるとよいのでは
社協のオムツ配達時における要支援者の様子の見守り
高齢者から、困り事の相談をよく受ける。市や包括へつなげる前に、話をよく聞くように心がけている
例：医師から介護保険申請を包括センターにするよう勧められても躊躇している人がいたが、本人と包括センター双方に連絡して申請の話が進められることになった
高齢者の見守り訪問により、体調とかを伺い、状態を把握するようにしている
老々介護状態の実態把握にともなう事で、福祉の活用と共に医療が必要であれば、取り組んでいかなければならない。医療や福祉サービスを使えない事もあるので、知ってもらう声掛け重要
課題…個人情報保護法の壁 ◎医療機関・福祉機関からの情報が得られない
主に高齢者が対象ですが、市より発行されている“おたっしゃくらぶ”等の活用
様々な年代の方にどのように適切な情報を届けられるか
福祉サービスにつながらない（あるいはつながりにくい）家庭への支援
支援者と当事者、家族との信頼関係の構築と継続的支援の確立
障害者のナイトケアの社会資源を調整
障がい支援に関わる中で 80、50 問題に課題を感じることがあります。高齢の親と障がいのある子ども（家族）がいるケースでニーズの掘り起こしや、病識理解、親なき後の生活基盤などさまざまな課題が存

回答
在します。そのため切れ目のない支援を行うための高齢障がい者に精通する支援が必要と思います。障がい支援介護保険などとサービスで分けなくても柔軟に利用できるサービスがあると良いと思います

【その他】の課題や必要な取り組み

回答
民生委員児童委員（特に主任児童委員）は学校などの関係機関と協力して地域の子どもやその家族を見守ったり支援したりする役割があることがあまり知られていない
保護者自身が支援対象となるような場合、その保護者をつなぐ先がなかなかない。結果、子どものためとして、当センター職員が本来の業務の枠を超えて、保護者を支援することが出てくる。保護者（大人）をトータルで支援する場があってほしい。あるいは既存の課が、自分たちの仕事と認識して対応を広げてほしい
すぐに就職させようと自立を促そうと思っても、本人に受診や職探しを無理に強いてもうまくいかない状況があるなかで、社会復帰するまでの準備できる場所が必要
健康づくり無関心層への対応、働く世代へのアプローチ、ひきこもりの方への健康づくり
①支援機関の年齢制限を迎えた場合、次の機関への引継ぎをしっかりと行うことはもちろん、担当者同士も顔の見える関係性を築き、相談者が安心して相談できる環境を整えることでひきこもり状態の長期化の予防につながると思われる。
②市民を対象とする講演会などの啓発事業を行い、周囲の理解が進むことで、家族が孤立することなく相談のハードルが下がると思われる
医療的ケア児等の障害児が成人期になった際の移行が難しいことも医療センター等から受入れの相談を受けるが、県全体として考えていく必要がある
新しい就労移行や就労継続Bの事業所が年々増えている影響もあり、当事業所のような昔からある地域の事業所に通所する方が少なくなっているように感じる。市や他事業所、病院などにメンバーの募集について発信しているが、それと並行して今後どのように今までの事業所の在り方を大切にしながら「今」に合った事業所の体制づくりをしていくかが課題となっている

3. ヤングケアラーについて

(1) 日ごろの活動で、あなたやあなたの所属団体等で、以下のイラストのような18歳未満の子ども・若者について、目にしたこと、耳にしたことはありますか。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている。



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている。



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている。



目の離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている。



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている。



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている。



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している。



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている。



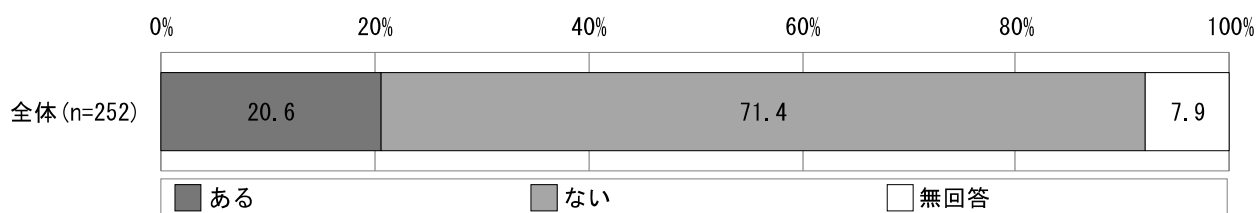
障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている。



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている。

出典：こども家庭庁参照

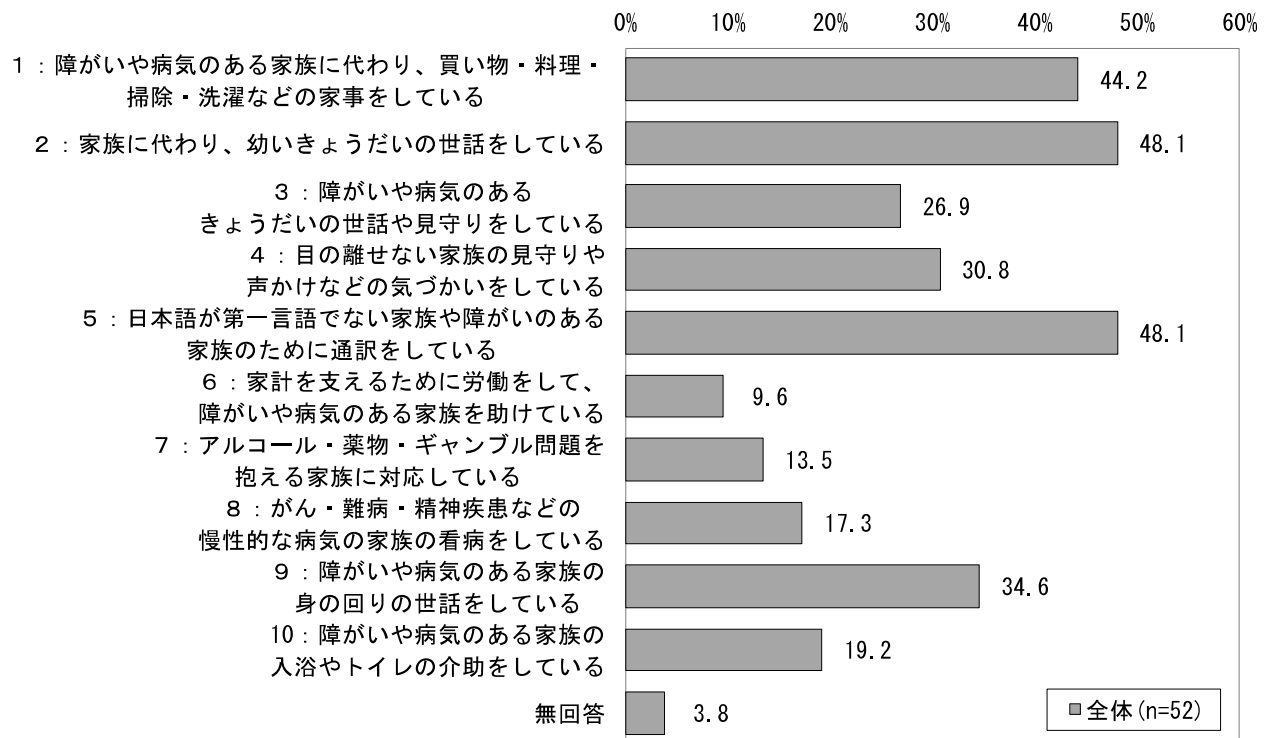
全体では、「ある」が20.6%、「ない」が71.4%となっている。



(2) あてはまるイラストの番号をお答えください。(いくつでも)

※(1)で「ある」と回答した方に質問

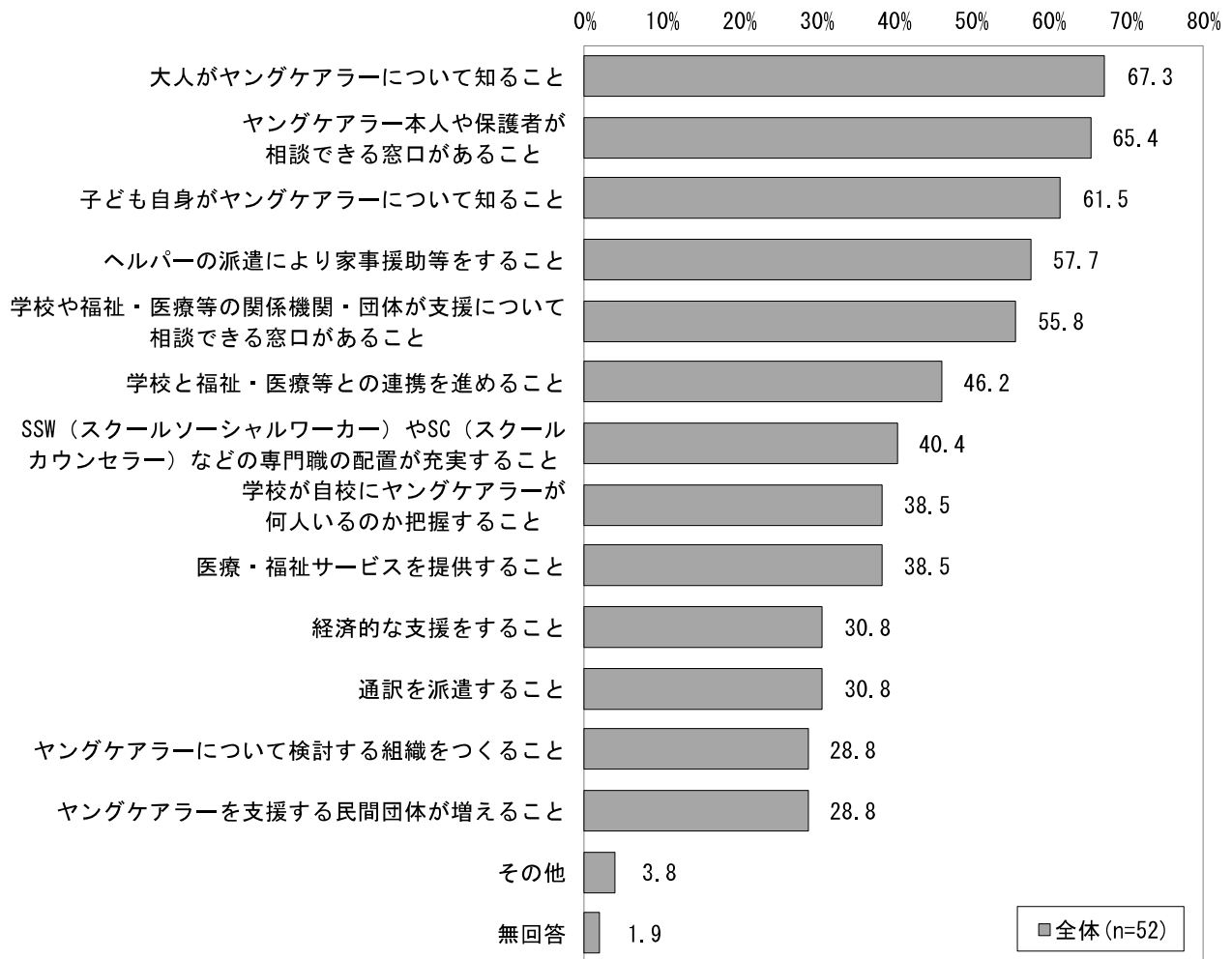
全体では、「2：家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている」と「5：日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている」が、それぞれ48.1%と最も高く、「1：障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている」が44.2%と続いている。



(3) その方には、どのような対応・支援が必要だと思いますか。(いくつでも)

※(1)で「ある」と回答した方に質問

全体では、「大人がヤングケアラーについて知ること」が 67.3%と最も高く、「ヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること」が 65.4%、「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」が 61.5%と続いている。

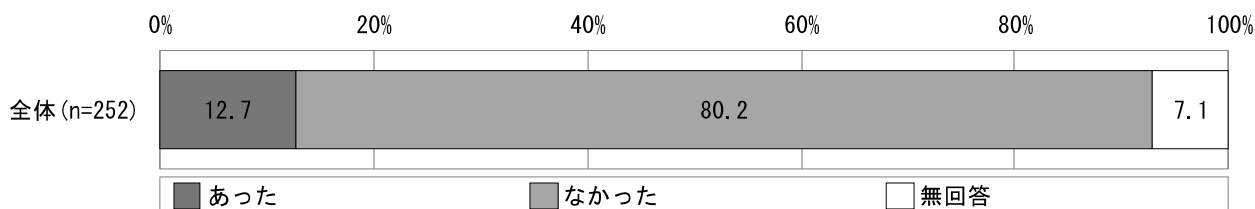


4. ひきこもりの現状と支援について

(1) 令和5年度中において、あなたや所属団体等に、ひきこもり状態の方に関する相談はありましたか（当事者は伊勢原市民に限る）。

令和4年度以前から、継続して相談を受けている方についても、ご回答ください。

全体では、「あった」が12.7%、「なかった」が80.2%となっている。



(2) 令和5年度中に具体的に対応された、ひきこもり状態の方（以下「支援対象者」という。）についてお聞きします。該当する支援対象者数などをご記入ください。

※(1)で「あった」と回答した方に質問

年齢層	回答数	平均	合計
12歳～14歳(中学生)	9	1.78(人)	16(人)
15歳～17歳(高校生)	3	2.00(人)	6(人)
18歳～19歳	3	1.33(人)	4(人)
20歳代	4	3.75(人)	15(人)
30歳代	7	1.57(人)	11(人)
40歳代	6	2.00(人)	12(人)
50歳代	12	1.58(人)	19(人)
60歳～64歳	4	1.00(人)	4(人)
不明	4	7.75(人)	31(人)

性別	回答数	平均	合計
男性	23	2.70(人)	62(人)
女性	15	1.80(人)	27(人)
不明	1	27.00(人)	27(人)

世帯構成別	回答数	平均	合計
ひとり暮らし世帯	5	1.00(人)	5(人)
夫婦と未婚の子どもの世帯	11	2.73(人)	30(人)
ひとり親と未婚の子どもの世帯	14	2.43(人)	34(人)
三世代世帯(祖父母・親・子ども)	1	1.00(人)	1(人)
夫婦のみの世帯	3	2.00(人)	6(人)
その他	7	1.29(人)	9(人)
不明	2	14.00(人)	28(人)

相談に至ったきっかけ	回答数	平均	合計
電話	11	3.36(件)	37(件)
来所	4	2.50(件)	10(件)
家庭訪問	8	1.25(件)	10(件)
出張相談	2	1.50(件)	3(件)
メール、SNS	0	-	0(件)
会議の場	0	-	0(件)
立ち話	3	1.00(件)	3(件)
その他	10	2.50(件)	25(件)
不明	2	14.00(件)	28(件)

主な相談者	回答数	平均	合計
親のみ	13	1.54(人)	20(人)
本人のみ	6	1.50(人)	9(人)
本人と親	5	2.40(人)	12(人)
きょうだい	4	1.00(人)	4(人)
友人・知人	5	1.20(人)	6(人)
市などの関係機関	7	3.57(人)	25(人)
その他	3	4.00(人)	12(人)
不明	2	14.00(人)	28(人)

ひきこもりのような状態となったきっかけ別	回答数	平均	合計
不登校(小学校、中学校、高等学校)	10	3.00(人)	30(人)
精神的な疾病又はその疑い(確定診断がなされた統合失調症を除く)	8	1.50(人)	12(人)
その他の疾病又は体調不良	7	1.71(人)	12(人)
家族との人間関係(緊張・対立等)	7	1.29(人)	9(人)
家族の世話(疾病や障がい、介護等)	2	1.00(人)	2(人)
家族以外との人間関係	4	4.00(人)	16(人)
就職活動の失敗	6	2.33(人)	14(人)
受験の失敗	1	1.00(人)	1(人)
高校・大学になじめなかった	4	1.25(人)	5(人)
職場になじめなかった	5	2.40(人)	12(人)
新型コロナウイルス感染症の流行	0	-	0(人)
その他	1	1.00(人)	1(人)
不明	7	4.71(人)	33(人)

初めて相談(電話、来所等)するまでの期間	回答数	平均	合計
6 カ月未満	8	1.38(人)	11(人)
6 カ月～1 年未満	5	1.80(人)	9(人)
1 年～2 年未満	5	1.80(人)	9(人)
2 年～3 年未満	4	1.00(人)	4(人)
3 年～5 年未満	2	1.50(人)	3(人)
5 年～7 年未満	2	1.00(人)	2(人)
7 年～10年未満	4	3.25(人)	13(人)
10年～15年未満	1	4.00(人)	4(人)
15年～20年未満	2	1.50(人)	3(人)
20年～25年未満	0	－	0(人)
25年～30年未満	0	－	0(人)
30年以上	1	2.00(人)	2(人)
不明	10	4.70(人)	47(人)

ひきこもりのような状態となつてからの期間	回答数	平均	合計
6 カ月未満	1	2.00(人)	2(人)
6 カ月～1 年未満	4	1.75(人)	7(人)
1 年～2 年未満	3	2.33(人)	7(人)
2 年～3 年未満	6	1.17(人)	7(人)
3 年～5 年未満	5	1.20(人)	6(人)
5 年～7 年未満	3	1.33(人)	4(人)
7 年～10年未満	3	4.00(人)	12(人)
15年～20年未満	4	1.50(人)	6(人)
15年～20年未満	1	2.00(人)	2(人)
20年～25年未満	2	2.50(人)	5(人)
25年～30年未満	2	1.50(人)	3(人)
30年以上	1	1.00(人)	1(人)
不明	9	4.89(人)	44(人)

支援対象者が、ひきこもりと同時に抱えている課題等	回答数	平均	合計
精神的な疾病又はその疑い(確定診断がなされた統合失調症を除く)	10	2.10(人)	21(人)
知的障がい又はその疑い	2	1.00(人)	2(人)
発達障がい又はその疑い	11	2.73(人)	30(人)
身体の障がい	2	2.00(人)	4(人)
その他の疾病又は体調不良	9	1.56(人)	14(人)
家族との人間関係(緊張・対立等)	12	1.58(人)	19(人)
家族の世話(疾病や障がい、介護等)	3	3.00(人)	9(人)
就学先がない	2	1.00(人)	2(人)
就職先がない	7	1.29(人)	9(人)
生活困窮	6	2.00(人)	12(人)
家庭内暴力	2	4.00(人)	8(人)
対人恐怖・不安	7	2.57(人)	18(人)
その他	0	-	0(人)
不明	5	6.80(人)	34(人)

相談者及び支援対象者への支援内容	回答数	平均	合計
情報提供	10	2.70(人)	27(人)
家族支援	6	2.33(人)	14(人)
社会参加支援	2	8.00(人)	16(人)
生活支援	4	2.00(人)	8(人)
就学支援	1	1.00(人)	1(人)
就労支援	3	1.67(人)	5(人)
関係機関又は専門機関へつないだ	15	2.20(人)	33(人)
その他	1	1.00(人)	1(人)
不明	1	27.00(人)	27(人)
相談のみで支援は行っていない	8	1.13(人)	9(人)

相談及び支援の中で支援対象者に見られた変化	回答数	平均	合計
支援機関に相談に行くようになった	7	2.14(人)	15(人)
復学・就職に向けて活動を始めた	1	2.00(人)	2(人)
復学・就職した	3	1.00(人)	3(人)
家族とコミュニケーションがとれるようになった	1	2.00(人)	2(人)
人づきあいのために外出するようになった	2	1.00(人)	2(人)
自室から出られるようになった	4	3.75(人)	15(人)
医療機関を受診した	8	1.75(人)	14(人)
医療機関に入院した	4	1.25(人)	5(人)
ひとり暮らしを始めた	0	-	0(人)
その他	3	1.00(人)	3(人)
不明	7	4.71(人)	33(人)
特になし	6	1.67(人)	10(人)

(3) 民生委員・児童委員及び青少年指導員の方にお聞きします。令和5年度中に具体的に対応された方以外に、地域においてひきこもりの状態の方を目にしたこと、耳にしたことはありますか。あった場合は該当する人数などをご記入ください。

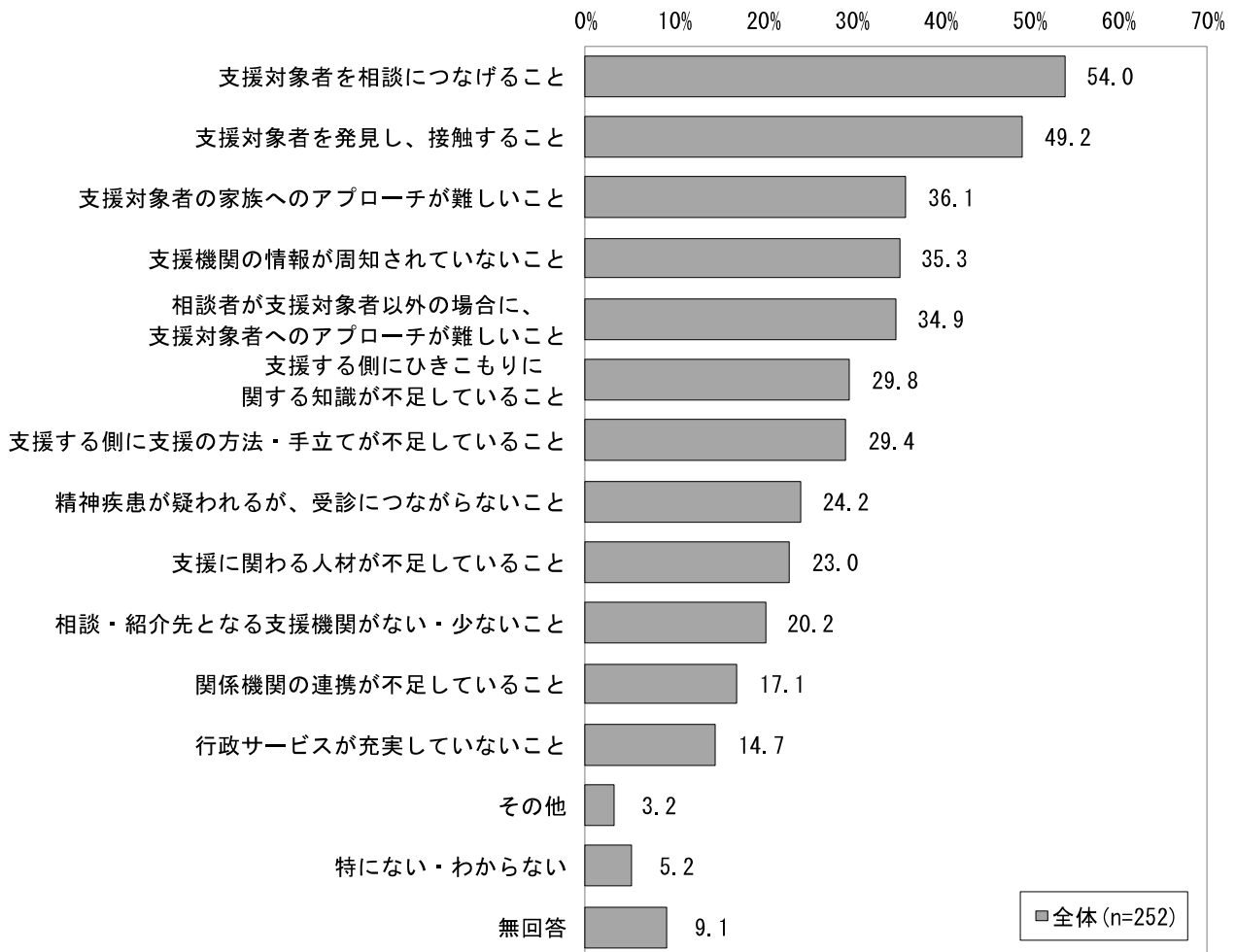
年齢層	回答数	平均	合計
12歳～14歳（中学生）	5	1.60(人)	8(人)
15歳～17歳（高校生）	2	1.00(人)	2(人)
18歳～19歳	1	1.00(人)	1(人)
20歳代	6	1.33(人)	8(人)
30歳代	4	1.00(人)	4(人)
40歳代	13	1.08(人)	14(人)
50歳代	4	1.25(人)	5(人)
60歳～64歳	2	1.50(人)	3(人)
不明	8	1.00(人)	8(人)

性別	回答数	平均	合計
男性	29	1.31(人)	38(人)
女性	7	1.86(人)	13(人)
不明	1	1.00(人)	1(人)

世帯構成別	回答数	平均	合計
ひとり暮らし世帯	9	1.22(人)	11(人)
夫婦と未婚の子どもの世帯	13	1.08(人)	14(人)
ひとり親と未婚の子どもの世帯	14	1.14(人)	16(人)
三世帯世帯（祖父母・親・子ども）	3	1.00(人)	3(人)
夫婦のみの世帯	4	1.75(人)	7(人)
その他	2	1.00(人)	2(人)
不明	2	1.00(人)	2(人)

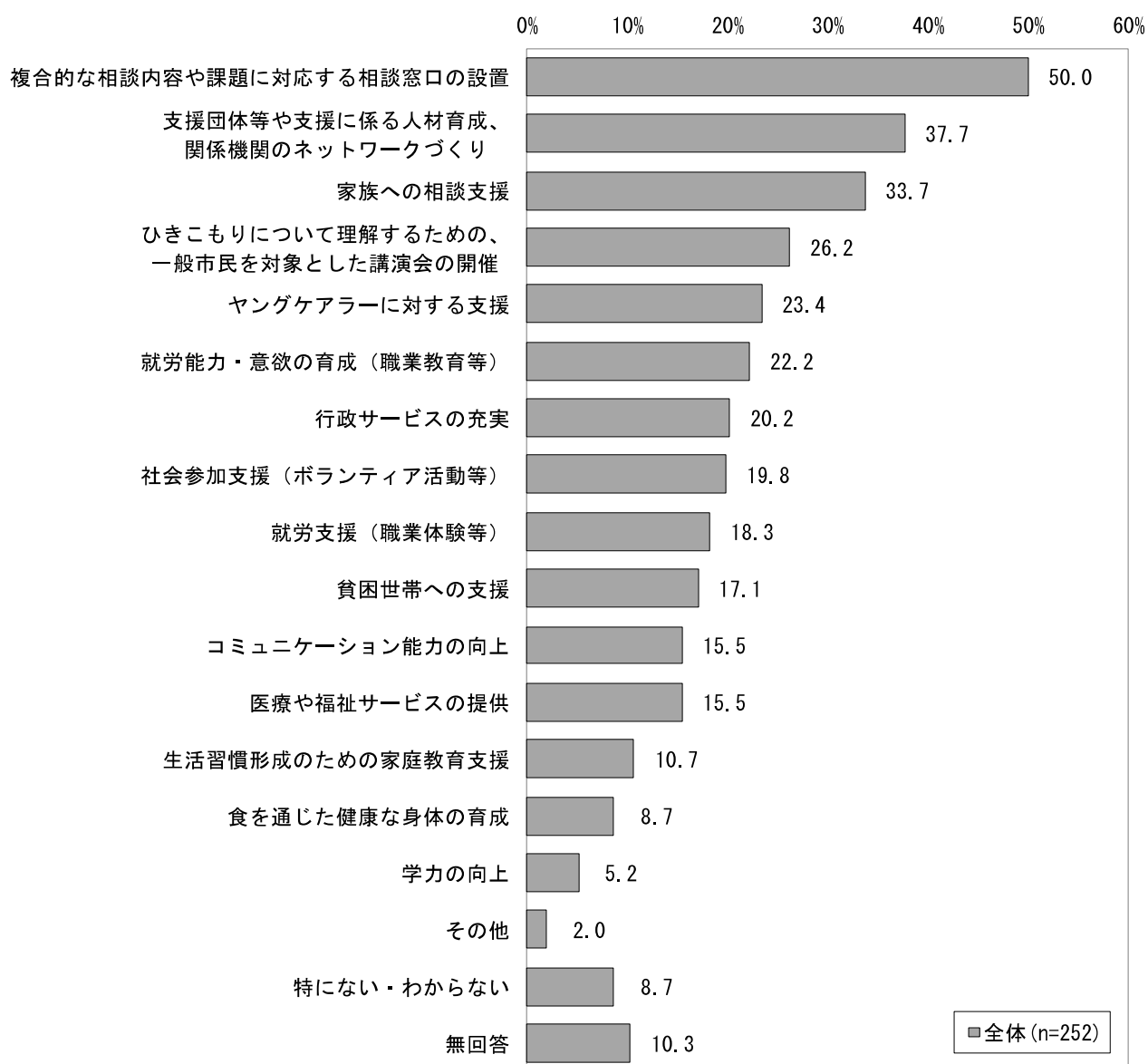
(4) ひきこもり状態の方への支援における課題等は何だと思えますか。(いくつでも)

全体では、「支援対象者を相談につなげること」が 54.0%と最も高く、「支援対象者を発見し、接触すること」が 49.2%、「支援対象者の家族へのアプローチが難しいこと」が 36.1%と続いている。



(5) ひきこもり状態の方への支援の充実に向けて、今後必要と思われる取り組みは何ですか。
(いくつでも)

全体では、「複合的な相談内容や課題に対応する相談窓口の設置」が 50.0%と最も高く、「支援団体等や支援に係る人材育成、関係機関のネットワークづくり」が 37.7%、「家族への相談支援」が 33.7%と続いている。



(6) ひきこもり状態の方への支援の充実に向けて、要望や提案などがありましたら、お書きください。(自由記述)

項目	件数
ひきこもり支援の多様な要因	14件
地域の連携と情報共有の難しさ	11件
匿名性を持たせた相談窓口の設置	10件
家族の相談支援体制の整備	7件
学校の対応と先生の関心	6件
情報提供と専任者の育成	6件
ひきこもり講演会の定期開催	6件
高齢者支援とひきこもり	5件
ひきこもり支援の専門職採用	3件
市町村間の広域連携の推進	2件
その他	10件
意見総数（回答者数78名）	80件